

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
福岡医健専門学校		平成14年4月1日	田中 輝男		〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30 (電話) 092-262-2119		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人滋慶文化学園		平成8年3月13日	覚野 博夫		〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町21-2 (電話) 092-6747		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士		
医療	医療専門課程	作業療法科		—	平成23年文部科学省 告示第170号		
学科の目的	「生命を尊重し、対象者が自立できるよう支援し、作業療法士として主体的に責任を持って行動できる能力」「作業療法に関する基礎知識と技術を習得し、作業療法における適切な判断、評価、実践できる能力」「柔軟な思考力と自主的思考力を持ち、作業療法の発展に積極的かつ創造的に取り組める能力」を有した作業療法士を育成する						
認定年月日	平成26年3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3,585 時間	1,260 時間	960 時間	1,365 時間	0 時間	0 時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	80	0人	6人	21	27人		
学期制度	■前期:4月1日～9月31日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について、出席率、授業態度、試験の成績、レポート・課題の成績等を総合的に勘案し、以下の4段階評価とする。		
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:8月26日～9月17日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:3月18日～3月31日		卒業・進級条件		1. 当該学年において、履修すべき学科目(必須科目)のうち、履修を認定されない学科目が1科目以上あれば、進級・卒業できない。 2. 履修すべき学科目のいずれかについて、出席回数が総授業回数の3分の2未満の者は、進級・卒業できない。		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ①担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との密接な連携強化②成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施		課外活動		■課外活動の種類 ①各種企業プロジェクト実行委員会 ②ボランティア実行委員会③学園祭実行委員会④体育大会実行委員会 その他		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和1年度卒業生) 病院 福祉施設		■就職指導内容 就職を専門に支援するキャリアセンターを設置し、一人ひとりの希望に沿って、履歴書指導、面接指導、求人獲得、企業見学・採用試験の設定から内定獲得交渉等を個別に行っている。また、仮に卒業式までに就職が決まらなくても、全ての学生の就職が決まるまで、卒業後も支援を行っている。		■課外活動の種類 ①各種企業プロジェクト実行委員会 ②ボランティア実行委員会③学園祭実行委員会④体育大会実行委員会 その他		
	■卒業生数 21 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 21 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他		■卒業生数 21 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 21 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業者に関する2020年6月1日時点の情報)		
中途退学の現状	■中途退学者 5 名 令和1年4月1日時点において、在学者91名(令和1年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者86名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ①進路変更 ②成績不良 ③経済的問題 ④病気 その他		■中退率 5.5 %		資格・検定名 種 受験者数 合格者数 作業療法士 ② 21人 21人		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ①滋慶奨学金(在校生対象の貸与型奨学金・無利子) ②学費分割納入制度(無金利・手数料等無、保証人不要) ③長期履修制度(留年に伴う学費免除)		■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	HTTP://www.iken.ac.jp/						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、随時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

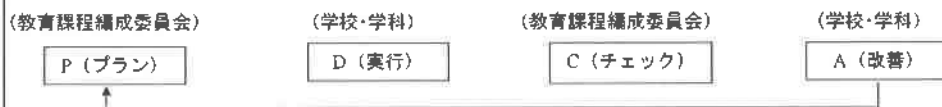
1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2020年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
許山 勝弘	公益社団法人 福岡県作業療法協会	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	①業界団体
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	③企業
吉田 孟史	学校法人 滋慶文化学園	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	常務理事
田中 輝男	福岡医健・スポーツ専門学校	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	学校長
生出 貴也	福岡医健・スポーツ専門学校	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	事務局長
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	教務部長・作業療法科学科長
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	教務事務部長

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年6月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催予定日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時)

第1回 2019年5月24日 15:00～17:00

第2回 2020年1月24日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

臨床実習現場に於いて学生をご指導いただく臨床実習教育者(SV)に対する教育の必要性のご指摘を頂いた。これに対処すべく、11/7開催の臨床実習教育者会議に於いて約70名のSVに対して教育公演「OGSの実際と形成的評価～臨床教育者の役割～」を行った。また、より効率的な学習指導を図るべきだとの意見に対して、臨床実習指導要綱を改正し、H30.2.5より始まる臨床評価実習から導入する。また、作業療法啓蒙の必要性についてご意見を頂いた。このため、教科書「作業療法の基礎知識」を新たに作成し、次年度より1年次教育や入学希望者に向けたオープンキャンパス等で活用予定である。また、学科を問わず全学科に共通した意見として、各委員からは、「コミュニケーション力の強化」「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など、多くの意見を頂いた。これらを基に、コミュニケーションスキル検定の導入や授業内容・方法の改善を図ると共に、授業以外の教科指導、実習指導、生活指導、就職指導、国試対策指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実談又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床評価実習	臨床場面に於いて、対象者との接し方、評価、プログラム立案や他のスタッフとのかかわり方を習得する	柴田長庚堂病院 白川病院 加野病院 熱川温泉病院 野田病院 他30施設 合計35施設
臨床実習Ⅰ	各疾病、各年齢層の対象者について評価、問題点の抽出から再評価までの流れを把握し、実習教育者の下で作業療法を実習する	糸島医師会病院 香椎康病院 虹が丘病院 福西会南病院 徳之島病院 他26施設 合計31施設
臨床実習Ⅱ	各疾病、各年齢層の対象者について評価、問題点の抽出から再評価までの流れを把握し、実習教育者の下で作業療法を更に深く実習する	桜十字福岡病院 牟田病院 高知大学医学部付属病院 八女リハビリ病院九州大学病院別府病院 他26施設 合計31施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験・職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・H30.9.22 第9回九州医学哲学倫理学会 九州医学哲学倫理学会主催 医療に係る倫理問題を学ぶ 参加者:作業療法科専任教員 作業療法に係る医療倫理を学び、「倫理学」の授業に活用した。
- ・H30.10.12 教育部(精神分野)第37回日本認知症学会学術集会(札幌) 日本認知症学会主催 参加者:作業療法科専任教員 作業療法における最新の認知症診断・治療を学んで、「作業療法治療学Ⅱ」「作業療法技術論Ⅱ」の授業で活用した。
- ・H30.10.19 第2回現職者共通研修 公益社団法人福岡作業療法協会主催 作業療法士として必要な知識習得 参加者:作業療法科専任教員 作業療法士として必要な最新の知を習得し、「作業療法治療学Ⅴ」の授業で活用した。
- ・H30.10.14 九州理学療法士・作業療法士合同学会in沖縄 一般社団法人日本作業療法士協会等主催 九州各県における理学療法・作業療法の学術事例を学ぶ 参加者:作業療法科専任教員 作業療法の学術研究発表を聞いて、作業療法における最新の技術や事例、情報を習得し、「作業療法評価学Ⅰ」の授業で活用した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・R1.8.23 第31回教育研究大会 全国リハビリテーション学校協会主催 リハビリテーション養成教育に係る学術及び研究発表 参加者:作業療法科専任教員 リハビリ教育に係る最新の技法と事例を学び、教育力向上に活用した。
- ・H30.6.23 国家試験対策研修会 一般社団法人滋慶教育科学研究所主催 国試対策に係る傾向の分析及び教育方法 参加者:作業療法科専任教員 各種国家試験に係る最新の傾向と対策、成功事例を学んで「国家試験演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業で活用した。
- ・H31.2.17 第2回現職者共通研修 公益社団法人福岡県作業療法協会主催 作業療法における協業・後輩育成 参加者:作業療法科専任教員 作業療法障害教育が異論を学び、ホームルームを始め学生の生活指導、教員指導、就職指導その他必要に応じて随時活用した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・R1.6.22~23 第1回九州作業療法学会 一般社団法人日本作業療法士協会主催 作業療法の学術・臨床研究発表 参加者:作業療法科専任教員 九州各県の臨床事例を学び「リハビリテーション医学」「リハビリテーション概論」での活用を図る。
- ・R1.9.7 第10回九州医学哲学倫理学会 九州医学哲学倫理学会主催 医療に係る倫理問題について学ぶ 参加者:作業療法科専任教員 医療に係る倫理問題について学び「倫理学」の授業での活用を図る
- ・R1.9.25~27 第46回国際福祉機器展 全国社会福祉協議会主催 福祉機器の最新の知見を習得する 参加者:作業療法科専任教員 福祉機器の最新の知見を学び「日常生活活動学」「日常生活活動学実習」「社会福祉言論」等の授業で活用する

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・R1.6.22 国家試験対策研修会 一般社団法人滋慶教育科学研究所主催 国試対策に係る傾向の分析及び教育方法を学ぶ 参加者:作業療法科専任教員 国家試験に係る最新の傾向と対策を学び、国試合格率100%に向けて「国家試験演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に活用する。
- ・R1.7.23~24 FDミクロレベル研修 一般社団法人滋慶教育科学研究所主催 授業の在り方と授業設計技術を学ぶ 参加者:作業療法科専任教員 授業の在り方と授業設計技術を学び専任教員の授業全般に活かすと共に学科内勉強会で活用する。
- ・R1.8.29~30 第32回教育研究大会 全国リハビリテーション学校協会主催 リハビリテーション養成教育に関する学術及び研究発表 参加者:作業療法科専任教員 リハビリテーション養成教育に関する学術及び研究発表を通して成功事例を学び、授業運営、クラス運営、生活指導、実習指導、就職指導などで活用を図る。
- ・R1.10.19 現職者共通研修 公益社団法人福岡県作業療法協会主催 作業療法障害教育概論を学ぶ 参加者:作業療法科専任教員 作業療法障害教育概論を学び「作業療法概論」などの授業に活用する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

ミスマッチによる早期退職者が出ることがあるとの指摘があった。これに対処すべく、就職指導時に自己分析を徹底させると共に、「臨床評価実習」「臨床実習」に係る実習指導の時から仕事観や職業観を十分に持たせるよう指導を行った。また、理学療法科と同様に、入学者の基礎学力の低下に対する対策が必要である旨の指摘とその対策として、入学選考科目として従来の面接試験に加え新たに学力試験の実施の提案を頂いた。語彙読解能力や加減乗除といった基本的な計算能力が弱いと、中途退学や国家試験不合格を招く大きな要因となるとの意見であった。これに対処すべく、入学前年の10月より入学前授業を実施すると共に入学直後から、補習・補講を実施し、その対策に当たった。入学選考科目に学力試験を導入する件については、他学科との兼ね合いも考慮しながら、今後の検討課題とする。また、各委員より各項目概ね「評価4」の評価を頂いたが、その他の意見としては、学科を問わず学校全体への意見として、各委員から「コミュニケーション能力の更なる向上に努めてほしい」「国家資格の合格率と共に受験率の更なる向上を期待する」「中途退学率の更なる低減が必要」「基礎力と応用力の強化が重要」など多くの意見を頂いた。リーダー会議、学科会議、キャリアセンター会議、全体会議等でこれらの意見を共有し、具体的な対策を実施し、その実現を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿(2020年4月1日現在)

名前	所属	任期	種別
谷口 貴隆	スポーツ科学科卒業生	2020年4月1日~2021年3月31日(1年)	卒業生
村山 立司	理学療法科 在校生保護者	2020年4月1日~2021年3月31日(1年)	保護者
成崎 淳一	博多区大浜公民館	2020年4月1日~2021年3月31日(1年)	地域

矢ヶ崎 裕和	福岡県立香椎高等学校	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	高等学校
村田 栄治	村田整骨院	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(柔道整復)
要 信義	要鍼灸院	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(鍼灸)
水原 博而	九州スポーツ協議会	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	(スポーツ)
岩橋 克記	独立行政法人国立病院機構 九州医療センターがん登録センター	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(医療事務)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(理学療法)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(作業療法)
恒吉 俊美	医療法人三井会 神代病院	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(救急救命)
案西 浩平	医療法人桜香 あんざい歯科クリニック	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(歯科衛生士)
中西 祐介	(株)サンドラッグ	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(薬業)
相川 直美	福岡県済生会 八幡総合病院	2020年4月1日～2021年3月31日(1年)	企業(看護)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 2020年7月15日（前回令和1年10月20日）

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

<http://www.iken.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2)各学科等の教育	受入方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年歴 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号 取得を目指す資格 資格試験合格実績 主な就職先
(3)教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動
(6)学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧 奨学金 教育ローン案内
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援 留学生の受入れ状況 外国の学校との交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ 広報誌等の刊行物

URL: <http://www.iken.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2020年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	全人的リハ医療を実践するという心を持ち、患者本意の医療者を育成するための医療行動科学の考え方と方法について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			倫理学	現代社会の医療分野で生起する生命倫理問題に適切に対処するため、必要不可欠な生命倫理に関する基礎的事項を修得させる。	1前	30	2	○			○			○	
○			社会福祉原論	現代社会における社会福祉の基礎から、各分野サービスの理解、多様化する社会福祉問題や、今後の課題などについて学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			物理学	物理学は、医療においても重要であるため、人間の運動の科学や各法則など基礎となる、力や運動、仕事やエネルギーについて学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			生物学	生物学の基本を学び、今後学ぶ解剖学・生理学等の基礎専門科目を理解するための基盤を作る。	1前	30	2	○			○			○	
○			統計学	医療統計に必要な統計理論を理解し、医療現場における調査・統計などの例題を分析する方法を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○			○	
○			情報処理学Ⅰ	パソコン・インターネット等ITの基本的な仕組みを理解し、情報収集・解析・発信、コミュニケーションの道具として使える素質を養う。	1前	30	2	○	△		○			○	
○			情報処理学Ⅱ	情報を収集し、データ解析、プレゼンを使っての発表まで、今後臨床に必要な知識・技術を学ぶ。	1後	30	2	○	△		○			○	
○			コミュニケーション論	対象者やその家族、職場での人間関係について、これらの基礎となる人間関係に必要な基本的コミュニケーションの知識、技術を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○			○	
○			保健科学Ⅰ	機械化・自動化される社会の中、身体活動量が減少することでの影響また改善のための解決方法や、健康づくりの課題や方法を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○			○	
○			保健科学Ⅱ	複雑化してくる現代社会の中で、心身の健康や活力の最新の為に展開されるウリエーションなどを学び、集団力動を応用した作業療法、人間関係の構築方法やストレスマネジメントを学習する。	1後	30	2	△	△	○	○	△	△	△	
○			英会話	国際教育理念の中で、グローバル化した社会に対応できるよう医療機関で必要な英会話を学ぶ。	1後	30	2	○	△		○			○	
○			医学英語	医療人として必要な、現場でのカルテ・処方箋などに使われる医療英語、また海外研修に必要な英語を学習する。	1前	30	2	○			○			○	

○		病理学Ⅱ	人体の各臓器における特徴的な病態像を理解することにより疾患・本態を学ぶ。	2前	30	1	○			○								
○		臨床心理学	医療における臨床心理学的な支援の必要性とその背景、ならびに実践を行う際に必要とされる知識、技法について学ぶ。	1後	30	1	○	△		○								
○		内科学Ⅰ	臨床医学の中の内科疾患について、その病態生理から原因、経過、治療、予後に至るまで、医学的知識を学ぶ。	2前	30	1	○			○								
○		内科学Ⅱ	臨床医学の中の内科疾患について、その病態生理から原因、経過、治療、予後に至るまで、医学的知識を学ぶ。	2後	30	1	○			○								
○		一般臨床医学Ⅰ	救急病態の総論・各論について学ぶ。老年医学の病態や治療方法について学ぶ。	2後	30	1	○			○								
○		一般臨床医学Ⅱ	臨床医学の総論として、各分野の疾患について、その基本的病態や特徴、リハビリテーションに至るまでを学ぶ。	3前	30	1	○			○								
○		整形外科Ⅰ	運動器の障害として、リハビリテーションとの関係は密であり、その総論、各論については関係を持たせながら学習する。	2前	30	1	○			○								
○		整形外科Ⅱ	運動器の障害として、リハビリテーションとの関係は密であり、その総論、各論については関係を持たせながら学習する。	2後	30	1	○			○								
○		神経内科学Ⅰ	神経疾患の各論からリハビリテーションについてまで、その医学的背景を理解し、評価・治療の知識を学習する。	2後	30	1	○			○								
○		神経内科学Ⅱ	神経疾患の各論からリハビリテーションについてまで、その医学的背景を理解し、評価・治療の知識を学習する。	3前	30	1	○			○								
○		精神医学	患者の身体機能のみならず、精神状態についても理解できる、またその状況を的確に把握できる能力を身につける。	2前	30	1	○			○								
○		小児科学	小児特有の病態を理解し、基本的な知識を身につけ、リハビリテーションにおける正確な評価・治療を学ぶ。	3前	30	1	○			○								
○		リハビリテーション医学	理学療法・作業療法に関わる疾患を理解するとともに、その後の障害の発生・治療の知識・理解を深める。	3前	30	1	○			○								
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念と目的を理解し、リハビリテーションに関わる他の専門職の概要や具体的なアプローチ方法等について学ぶ。	2前	30	1	○	△		○								
○		社会保障制度論	保健医療および医療・介護保険制度、社会保障・社会福祉に関する基礎的知識を学び、医療サービスが提供できる能力を修得する。	3前	30	1	○	△		○								
○		作業療法概論	作業療法の定義・目的・歴史や作業療法士の流れ、役割や各領域の専門性について理解する。	1前	30	1	○	△		○								
○		基礎作業学	作業学に関わる基礎知識と作業分析を学ぶ。更に作業分析をもとにした作業療法の原理を理解する。	2後	30	1	○	△		○								

○	基礎作業療法 学実習Ⅰ	作業療法の治療手段としての様々な作業活動について、基礎的知識・技術を習得する。	2 後	60	2	△		○	○	○		
○	基礎作業療法 学実習Ⅱ	作業療法の治療手段としての様々な作業活動を企画するとともに、治療実践や応用を学習していく。	3 前	30	1	△		○	○	○		
○	作業療法セ ミナー	臨床実習で培った経験と座学における学習内容を統合し、国家試験合格に向けて必要な知識を総合的に習得する。同時に苦手分野の知識を補う。	4 後	60	2	△		○	○	○		

○		作業療法演習	臨床実習で「体験学習してきた内容と過程」について“症例報告”を通して、学生・教員が相互にフィードバックする機会とする。	4後	30	1	○	△	○	○		
○		作業療法評価学Ⅰ	作業療法評価の概念等の基礎知識や観察及び検査測定等の基礎知識を学ぶ。	1後	60	2	○	△	○	○		
○		作業療法評価学Ⅱ	作業療法評価の概念等の基礎知識や観察及び検査測定等の基礎技法を学び、臨床実践につなげていくための技術を学ぶ。	2前	60	2	○	△	△	○	○	
○		作業療法評価学実習	作業療法評価学で学んだ基礎知識・技術をもとに、治療的应用について学ぶ。	3後	60	2	○	△	○	○		
○		作業療法治療学Ⅰ	脳血管障害等の中枢性疾患における身体障害に対する作業療法の治療原理、各疾患・障害に対する治療の実践について学習する。	2前	30	1	○		○	○		
○		作業療法治療学Ⅱ	精神障害の領域における作業療法の理論、治療原理、各疾患・障害に対する治療の実践について学習する。	2後	30	1	○		○	○		
○		作業療法治療学Ⅲ	正常発達の知識を整理し、作業療法プログラムへの応用について学習する。同時に発達障害児の発達的特徴や障害の特性に合わせた援助方法についても学習する。	3前	30	1	○		○		○	
○		作業療法治療学Ⅳ	高齢期の加齢に伴う身体及び精神機能面における変化と、各疾患・障害の特性に対応した治療・援助方法について学習する。	3前	30	1	○		○	○		
○		作業療法治療学Ⅴ	ひとのライフケアを学ぶと同時に就労支援および終末期の援助の概要を学ぶ。さらに作業療法評価の実践を経験する。	3後	30	1	○	△	△	△	○	△
○		作業療法治療学演習Ⅰ	各障害に対する作業療法の評価学、治療学で学習した知識を、臨床実践へつなげていくための技術について修得する。	2後	60	2	△	○	○	△	○	
○		作業療法治療学演習Ⅱ	精神科領域における作業療法評価・治療技法や記録報告などを体験的に学習していく。	3後	60	2	△	○	○	△	○	
○		日常生活活動学	ADLの概念と範囲について理解し、代表的なADL評価を学ぶ。更に、IADLや支援システム等についても理解を深める。	2前	30	1	○		○	○		
○		日常生活活動学実習	疾患別のADLやトランスファについて学ぶ。また、屋外実習を通してより具体的にADL・IADLの重要性について学ぶ。	2後	60	2	△	○	○	△	○	
○		作業療法技術論Ⅰ	作業療法評価を適切に実施し、ICFを用いて評価の統合と解釈及び治療計画立案までをイメージする。	3前	60	2	△	○	○	○		
○		作業療法技術論Ⅱ	精神科領域において各疾患特性・障害に応じた作業療法について学習していく。	3前	60	2	△	○	○	○		
○		作業療法技術論Ⅲ	作業療法治療学Ⅲによって行ってきた学習を実際に展開出来ることを目的とする。	3前	60	2	△	○	○	○		
○		高次脳機能障害学Ⅰ	中枢性疾患のOTに重要な高次脳機能の概念や治療の基本を習得する。	3前	30	1	○		○	○		
○		高次脳機能障害学Ⅱ	高次脳機能障害の各障害ごとの臨床像、生活上の問題を把握し、その評価方法とリハビリアプローチを知る。	3後	30	1	○	△	○	○		
○		義肢装具学	義肢・装具に関する基礎知識と臨床応用について学ぶ。	3後	30	1	○	△	△	○	○	
○		作業療法特論	作業療法とその周辺領域の理論、治療や援助方法、管理運営などについて修得する	4前	30	1	○	△	○	△	○	
○		地域作業療法学	対象者のQOL向上を目指した地域作業療法を実践するために、地域作業療法の背景、関連する制度や具体的介入に関する基礎的な知識を修得する。	3前	30	1	○	△	○	○		
○		地域作業療法学実習	老年期障害者や身体障害者ならびに精神障害者、そして、発達障害児・者といった各領域に必要とされる知識を学習し、地域作業療法についての理解を深める。	3後	60	2	△	○	○	○		

○		地域福祉論	地域福祉の概念、思想、実践方法について総括的に述べる。	3後	30	1	○	△		○	○			
	○	海外研修	海外の医療制度やリハビリテーション専門教育の違い、更にはリハビリテーションの実際について施設等の見学を通して理解を深める	2後	30	1	△	○			○	△	○	
	○	作業療法研究	作業療法研究を通して、研究法を形成・模索し、自己の問題解決能力や論理性・表現能力を身につける。	2後	30	1	△	○		○	○			
○		臨床評価実習	臨床場面において、対象者との接し方、評価、プログラム立案や他のスタッフとの関わり方を習得する。	3後	135	3		△	○	△	○		○	○
○		臨床実習Ⅰ	各疾病、各年齢層の対象者について評価、治療計画の立案、治療の実施およびその記録・報告など一貫した作業療法を習得する。	4前	405	9		△	○	△	○		○	○
○		臨床実習Ⅱ	各疾病、各年齢層の対象者について評価、治療計画の立案、治療の実施およびその記録・報告など一貫した作業療法を習得する。	4前	405	9		△	○	△	○		○	○
○		国家試験演習Ⅰ	ポートフォリオやレポート作成などについて学び、国家試験問題等を通して、より一層の理解を深める。	1後	30	1		○		○		○		
○		国家試験演習Ⅱ	グループ学習方法について学び、既学習内容について関連する国家試験問題等を通して、より一層の理解を深める。	2後	30	1		○		○		○		
○		国家試験演習Ⅲ	既学習内容について関連する国家試験問題等より、実習前に必要な知識の理解を深める。	3後	30	1		○		○		○		
合計					80	科目	3615単位時間(123	単位)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。